

NEWS RELEASE

2014年5月13日
コベルコ建機株式会社

コベルコ建機 2014年3月期 決算概要

【2013年度の建設機械業界の概況と決算データ】

国内の建設機械市場（国内は年度）は、東日本大震災の震災復興事業の本格化、国土強靱化に向けた老朽化インフラの点検・改修、排出ガス規制や消費税率アップによる駆け込み需要などを背景に、主にレンタル会社向けを中心に伸張しました。油圧ショベルの2013年度の総需要は重機ショベルで前年比4割強、ミニショベルで前年比2割強増加しました。

海外の建設機械市場（海外は暦年）は、世界最大の油圧ショベル市場である中国市場に関しては、景気後退局面から底を打ち回復の兆しが見えてきました。都市部の生活関連工事が順調に回復してきているものの、鉱山需要や大規模開発などは低迷が続いており、重機ショベルは微減となり、ミニショベルは1割強増加しました。その結果、中国の重機・ミニを合わせた油圧ショベルの総需要は前年並みとなりました。東南アジア諸国は、資源関連の需要が低調に推移したことに加え、米国の量的緩和縮小政策の影響を受け、通貨下落に伴う経済成長の停滞が発生し、全体として低調に推移しました。このため、東南アジアの重機ショベルの総需要は前年比で2割弱減少しました。北米市場はここ数年順調に回復してきましたが、一服感がでており、重機ショベルは前年比で微減、ミニショベルは微増となりました。金融危機の影響から低迷を続けてきた欧州市場は、回復の兆しが出てきていますが、重機ショベルで前年比微増、ミニショベルは1割弱減少するなど、力強い回復傾向を示すには至りませんでした。

世界の総需要を概括すると、重機ショベルは23.6万台で前年比微減、ミニショベルは13.6万台となり、前年比1割弱の増加となりました。

2013年度はコベルコ建機グループの中期経営計画〈2013～2015年度〉の初年度となりました。国内においては増大する需要に應えるため、五日市工場、大垣工場とも生産能力を上回る水準でフル生産を続けました。10年ぶりに再進出した欧米市場においても想定を上回るスピードで販売網の構築を行うことができ、コベルコブランドの強さとお客様からの期待感を確信することができました。今後とも全世界においてコベルコのブランド価値を最大化すべくきめ細かな活動を推進してまいります。

国内市場活況への対応、東南アジアの急落、欧米への再進出など会社を取り巻く事業環境は激動の1年でしたが、グループ一丸となった取り組みにより、2014年3月期（2013年4月～2014年3月）の業績は、以下の通りとなりました。

〈2014年3月期の実績〉

{単位：百万円、（ ）内は前年度比}

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	当期（2013年度）	318,217 (+18.8%)	24,561 (+93.8%)	15,119 (+120.6%)	15,699 (+490.8%)
	前期（2012年度）	267,821	12,675	6,852	2,657

連結の売上高は、国内事業が1,383億円（前年比+29.2%）、海外事業が1,799億円（前年比+11.9%）、連結売上高の海外比率は56.5%となり、連結で海外売上比率が前年比微減となりました。（過去3カ年の海外売上高比率10年：73.1%、11年：67.7%、12年：60.0%）

【2013年度のコベルコ建機の事業別状況】

■ 国内事業

震災復興地域を含む東日本地域だけでなく、西日本地域や九州地域などでも活況となり日本全国で万遍なく需要が好調に推移しました。

2013年度の国内におけるコベルコ建機グループの油圧ショベル販売台数は、全国的に油圧ショベルの設備投資意欲が活発化したことにより、重機ショベルは前年比3割、ミニショベルは2割弱増加しました。増大する国内の需要に応えるため最大限の生産体制で臨みましたが、重機ショベルの需要増加には対応しきれず、結果として国内重機ショベルのシェアは若干低下しました。

中古車市場は、稼働機のストック調整が進んだことによる中古機の供給不足や、主な輸出先である中国や東南アジア市場の低迷など、輸出環境の悪化により低調に推移しました。

重機ショベルを生産している五日市工場とミニショベルを生産している大垣工場は、好調な需要増加に支えられたこと、また生産性向上改革が功を奏し、年度を通して能力を上回る生産が続きました。今後とも国内の2工場を世界最高水準の生産性とコスト競争力を持った生産拠点にしていくと共に、生産改革をリードしてきたグローバルエンジニアリングセンター（GEC）の活動を更に拡充させ、グローバルな開発・生産体制の構築を進めていきます。

■ 中国事業

中国の油圧ショベル需要は最悪期を脱したものの、都市部の小規模工事用のミニショベルの需要が増加する一方、鉱山向けや大型公共土木工事向けの重機ショベルの回復が伸び悩み、2013年の重機・ミニ合わせた油圧ショベルの総需要は約10万台になり前年並みとなりました。総需要では横這いとなりましたが、中国国内メーカーが伸び悩む中、外資メーカーはいち早く回復傾向が顕著となりました。コベルコ建機グループの販売台数は、重機ショベルで微増、ミニショベルで4割増となり重機・ミニとも、市場の動向を上回り前年比プラスとなりました。

■ 海外事業（中国事業を除く）

中国を除く海外においてはAPACエリアに加え、欧米地域での事業展開に取り組みました。欧米地域に関しては2013年から10年ぶりに米国、欧州市場に再参入し、精力的に流通網の整備に注力いたしました。その結果、CNH社との提携解消前と遜色ない水準まで市場開拓が進みました。今後とも全世界においてコベルコのブランド価値を最大化すべくきめ細かな活動を推進してまいります。

APACエリアのうち、東南アジア地域の総需要は、資源関連の低迷、米国の量的緩和縮小政策の影響、政治的混乱など様々な理由により、重機ショベル全体で2万台となり前年比2割弱減少し低迷しました。東南アジア地域の最大の市場であるインドネシアを例にとると、前半までは鉱山需要の低迷などにより需要が鈍化しながらも安定的に推移しましたが、後半に入り米国の量的緩和縮小政策の影響から通貨下落による経済成長停滞が発生し、急速に需要が鈍化しました。コベルコ建機グループも、需要の低迷の影響を受け2割弱程度販売が低迷しました。

東南アジア地域の生産拠点であるタイ現地法人『Thai Kobelco Construction Machinery Ltd. (タイ コベルコ コンストラクション マシナリー)』では、東南アジア地域での需要の低迷を受け、在庫調整のための減産を実施しました。

インドは景気後退の影響を受け総需要は2割強減少しました。ハイエンド市場を対象に最新鋭機を販売しマーケットの開拓を進めているインド現地法人『Kobelco Construction Equipment India Pvt. Ltd. (コベルコ コンストラクション イクイップメント インディア)』においても、景気後退の影響を受けましたが販売台数が1割強の減少となり、景気後退の影響を最小限にとどめました。またインド国内での販売だけでなく、中東地域等への輸出も始め、全体最適の経営方針のもとクロスソーシング拠点としても機能し始めました。

【2014年度の総需要予想、重点課題、2014年度通期見通しについて】

＜2014年度 総需要予想＞

国内は、東日本大震災の本格復興工事や、国土強靱化に向けた老朽化インフラの点検・改修など公共工事や民間設備投資なども比較的高い水準で推移すると想定されますが、排出ガス規制や消費税増税前の前倒し需要の影響により、新車総需要は2013年度比、減少すると予想しています。

中国市場は、都市部の生活関連工事は活発化しており、中・小型のショベル需要は底堅く推移すると予想していますが、鉱山地帯や大規模公共事業などで利用される大型ショベルの動きが引き続き低迷しており、力強さに欠け、不透明感が残るため、本格的な回復には今しばらく時間を要すると想定しています。

中国を除くアジア圏では、中国の景気停滞の影響や、政情不安や通貨変動など不透明感が払拭できない状況ですが、基本的には自律的な成長過程にあることから、世界の経済情勢が落ち着くと共に安定的な成長を続けると想定しています。北米は、急速な景気回復の後、昨年は景気回復一服感が顕在化しましたが、シェールガスなど新エネルギー関連工事が拡大している他、住宅着工件数も増加し、順調に推移していくと想定しています。欧州は、緊迫した金融危機から脱し緩やかな回復途上にあると認識していますが、ウクライナ情勢など不安要因を抱えており、本格回復はもう少し先になると想定しています。

＜2014年度の重点課題＞

事業戦線の拡大、事業環境の変化に追従できる柔軟で強靱な経営を推進し課題に取り組んでいきます。

◎世界のエリア別戦略課題の着実な実行

欧米事業の強化・安定化、戦略部品強化、サービス体制強化など

◎強靱な事業体への着実な前進

クロスソーシングの拡大、生産性向上によるグローバルな生産量の最大化（生産確保と安定化）、コストダウン追及による体質強化、品質向上、技術の進化

◎将来への備え

北米現地生産のF S（事業化調査）着手、内製コア部品の量産移行

＜2014年度通期の見通し＞

国内は前倒し需要の反動減が予想され、中国、東南アジア地域も不透感が残るものの、新規参入した北米地域、欧州地域での販売が本格化してくることから、全体としては堅調に推移し、重機ショベルを生産している五日市工場とミニショベルを生産している大垣工場は、引き続きフル生産体制が継続する見込みです。これらの結果、2014年度の通期見通しは下記のように予想しています。

(単位：百万円、()内は前年度比)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2014年度 通期連結見通し	340,000 (+6.8%)	30,000 (+22.1%)	22,000 (+45.5%)	15,000 (▲4.5%)
当期連結実績	318,217	24,561	15,119	15,699

(2014年度通期における為替レート前提：1米ドル=103円、1ユーロ=140円)

*上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。

実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上

平成26年3月期 決算業績概要

会社名	コベルコ建機株式会社	TEL : 03 (5789) 2111
代表者	代表取締役社長	藤岡 純
問合せ先責任者	取締役常務執行役員 企画管理部長	三木 健
親会社名	株式会社 神戸製鋼所 (当社株式の保有比率：96%)	
	神鋼商事株式会社 (当社株式の保有比率：4%)	

1. 平成26年3月期の連結業績(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)									
	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
26年3月期	318,217	18.8	24,561	93.8	15,119	120.6	15,699	490.8	
25年3月期	267,821	△ 12.8	12,675	△ 45.4	6,852	△ 70.0	2,657	△ 40.8	

	1株当たり当期純利益
	円 銭
26年3月期	49 06
25年3月期	8 30

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期	443,124	104,039	16.9
25年3月期	403,469	70,626	12.8

2. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は対前期増減率)									
	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
連結(通期)	340,000	6.8	30,000	22.1	22,000	45.5	15,000	△ 4.5	

*上記の予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであります。実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。